APFED3/03/Doc.7
2003年1月23日

アジア太平洋環境開発フォーラム第3回実質会合
2003年1月25日～26日

最終報告書についてのAPFEDメンバーのコメント集 *

1．内容

<u>オプションA</u>＜全体的で統合された方法で問題を扱う一つの課題を選択＞
APFED 最終報告書は我々が提唱する持続可能な開発に対する全体的で統合されたアプローチを実証するものにしたい。長大な報告書を部門別または機能別の章に分けることはこの重要な原則とは逆のものになる。(***シエリト・F・ハビト***)

APFEDが提示した切り口はWSSDにおいて最も重要な分野である。現段階ではこれらの切り口を統合するかまたは学際的な分野に対処する事により、新たな考えも生み出される。例えば、この目的のためには、良い統治と能力開発を提示しつつ淡水と都市化を相互に連関させる、などである。しかしながらこれはおおまかな考えであり、より議論を深める必要がある。(***レザ・マクヌーン***)

<u>オプションB</u>＜最も重要ないくつかの分野を選択＞
APFED 最終報告書はメンバーによって選択されたいくつかの分野について優先して焦点を当てるべきであり、ADB、ESCAP、UNEP、ASEAN事務局のような他の機関が作成した同様の文書などとは異なる体裁にするべきである。これにより、「有識者のグループ」としてのAPFEDが地域における優先度のより高いと考える分野に関して市民にコミュニケーションをとることになる。次回のAPFED会合はまず、優先事項のリストを何にするかを確認することではじめるべきである。(***シエリト・F・ハビト***)

…APFEDは、アジア太平洋地域にとって中心的かつ基本的に重要な分野に集中し、優先するべきである。ここはわれわれの地域であり、決して軽視してはならない地域である。APFEDの主要な目的はアジア太平洋地域においてリオからヨハネスブルグのビジョンを実現することである。(***パルベス・ハッサン***)

---

* コメントはオプションごとにABC順に編集、敬称略。

報告書･･･は選択した分野のみ扱うべき。(***キム・ハクスー，ESCAP***)

特別な分野に重点を置いた報告書･･･はより効果的である…将来を見据え、2005 年に向けて、いくつかの問題の検討を試みることは非常に重要である。WSSD はこうした調査のための材料をかなり提供した。各国首脳に加え、他の政府組織と非政府組織の意見はこうした作業のための重要な材料である。(***レザ・マクヌーン***)

大臣会合のことを考慮に入れると、横断的な問題に焦点を当てるのが重要であろう。さらに、環境関係以外の大臣が重要な役割を果たせるような問題を確認する努力が必要。そうすれば、多分野に渡っての問題のつながりや一貫性を持たせることを促進できる。
焦点を当てられたメッセージを書くには、選択的になることが重要である。しかし、特にこの地域の多様性を考慮に入れると、最も重要な問題が何であるかの議論には相当な相違点があるであろう。それでも、最初の努力はされるべきである。「洗濯物リスト」のような始め方は、避けるべきである。(サイモン・テイ)

サミットで提案された全ての(７つの)分野を含めることには惹かれる。しかし全てを含むのに必要な政策調査を完遂することは、大変な作業である･･･これら *7 つの分野*全てを含むのは現実性の見込みがない。横断的な分野、つまりガバナンスや能力開発に焦点を当てることは地域における持続可能な開発に貢献する APFED にとって、最も適切であろう。しかしながら、この事は残る５つの分野が重要視されないということではない。実際、全ての*または*いくつかの重要な分野がこの *2 つの*分野に含まれるであろう。(***トンロイ・オンチャン***)

<u>オプションＣ</u>＜APFED の提言に盛り込まれた７つの分野全てを包括的に(更にいくつかの分野を追加する可能性もある)とりあげる＞
APFED の提言に盛りこまれた分野はわれわれの出発点であるべきであり、中国での次回会合で APFED が決定すべき更にいくつかの分野を追加するべき。*持続可能な消費・生産パターン*をリストに加えるべきだと思う(再生可能エネルギーは実際にはこの一部)。これは上記に記したように、われわれの地域は、その多様な先住民の文化に特有な持続可能な消費生活様式に関して世界の他の地域に伝えるものが多くあるという事実により動機付けられている。これは世界の他の地域が認識すべきで十分見習うことが出来るものである･･･APFED はこれについて、地域固有のこうした持続可能な消費・生産慣行を収集しこれを世界の他の地域に普及させることを補助することによって、具体的なイニシアティブをとることが可能。
最終報告書においては APFED の提言における当初の分野はどれも省略するべきではないと

考える。これら全ては残りの 10 年の期間とそれ以降を通じて引き続き重要である。

APFEDはその考察において戦略的であるべきであり、WSSDにおける分野のみに留まる必要はなく、APFEDとして他の新たに生じつつある懸念を確認することが可能である…現在、国際テロに関する懸念が舞台の中心になってきており、今後のテロと持続可能な開発の掛かり合いを考慮することは意味があるかもしれない･･･APFEDは2005年以降の持続可能な開発の問題に対処するうえでの展望と戦略を示すことにより、認識されている卓越性に忠実であるべき。(***シエリト・F・ハビト***)

WSSD に対する提言において扱った分野は全て極めて重要であり、継続するべきと感じる。とりわけ地球の生命に欠かすことの出来ない**淡水資源と、**WSSD においてその重要性が焦点となり強調された**再生可能エネルギー**を継続すべき。WSSD で合意された実施計画の結果をうけて、APFEDはその他のどういう分野を作業するか選ぶべきである・・他の分野としては**生物多様性の喪失と回復、保健の問題(特に環境負荷に関するもの)**。APFEDはまた**環境評価**と**環境会計**(グリーン会計)について取り組むべき…。(***バーバラ・ハーディー***)

最終報告書はWSSDへのAPFEDの提言を中心に、2005年に開催予定のMCEDに提出するべく作成するべき。最終報告書は全てを含むべきであり…各部門別の分野に加え、横断的なな問題についても具体的な提案を盛り込んだ異なった章を設けるべき。提案は、それが準地域また国としての優先事項に取り組めば、とりわけ有用である。本最終報告書に対しては追加の分野は取り上げるべきではないが、APFEDが2005年のMCED以降も継続するならば、最終報告書はWSSDへのAPFEDの提言以外の追加的分野を確認することも可能。2005年開催のMCEDにおいて注目すべき他の切実な分野があるならば、それは最終報告書の最終節として「エピローグ」に含めるべき。エピローグはこれがWSSD後の章であり、ヨハネスブルグ後の時代において、MCED が特別の注意を払うのに値するアジア太平洋地域の特に重要性をもつ分野を取り上げたことを強調する。(***パルベス・ハッサン***)

報告書は3章にするべき。第1章は淡水、再生可能エネルギー、都市化をはじめとするAPFEDの提言に含まれる部門別分野に焦点を当てるべき。アジア太平洋地域のための持続可能な開発についてのプノンペン地域綱領において地域内の政府によって極めて重要性をもつと認識された優先地域に焦点を当てるためにもう１つの章を加えることも可能であろう。最終章は実施手段において議論された貿易、資金、良きガバナンス、能力開発を含むべき。(***キム・ハクスー、ESCAP***)

それぞれ部門別分野について一つの章を設ける…APFEDの提言にある7の分野は最終報告書にとって重要である。最終報告書はAPFEDの提言にあった全てを含む編集とする。新たな部門は追加する必要はない。APFEDは合意に達するなら、APFEDの提言に沿った他のLDC分野に対する適用性や提言についての付属書を追加することも可能。(***キム・ジョンヒン***)

最終報告書はAPFEDの提言に含まれるAPFEDによって確認された部門別の分野に加え、横断的な問題…について一つづつの章または節をもうけるべきとの見解。APFEDが確認した分野について、我々は「淡水資源」を拡大し「水資源」一般に含めるよう提案する。これはUNEPのGPA プログラムにより合致したものとなり IWRM を推進するものとなることに加え、APFEDがWSSDにおいて行った関連提案、特に「水政策は淡水管理と陸上起因の活動による悪影響から沿岸地域および海洋環境を保全することとの関係に相当の注意を払うべきであること」と整合する。もし追加または替わりの分野が選ばれるなら、将来世代にとってよりいっそうの重要性を持つことをもとに選択された新たに生じる分野であるべき。我々は必ずしもAPFEDが既にかなりの範囲をカバーしているリストに、更にトピックを加えるべきだと提案しているわけではない。しかしながらもし追加の分野が求められるならば、APFEDはICTと*持続可能な生産と消費*－ともに将来世代および地域の持続可能性に非常に大きな影響を与えるであろう－を含めることを検討するかもしれない。(***クラウス・テップファー、UNEP***)

2.構成

<u>オプションⅠ</u>＜ごく短い報告書と付属書＞

補助データが記載された、より詳細な付属書で補足された短い報告書(図、写真、グラフを散りばめた魅力的な出版構成で約10ページ)を支持する…APFED最終報告書は、我々が提唱する持続可能な開発に対して全体的で統合されたアプローチを実証するものだと考える。長大な報告書を部門別または機能別の章に分けることは、この重要な原則とは逆のものになる。(***シエリト・F・ハビト***)

<u>オプションⅡ</u>＜議長サマリーと付属書が付いた短い報告書＞

「**長さ**」の問題をまず見ると、最終報告書は長文の付属書をつけた短いものであるべきだと思う。「**構成**」に関して、APFEDメンバーが取り組むことを決めた各分野についての短い章に加え、我々が決定した分野横断的な問題すべてについてコメントし、「全体像」についての最終章を加えたものであるべきであると直感的に感じる。(***バーバラ・ハーディー***)

報告書は簡潔で分析的であるべき…(MCED)大臣会合に提出されるなら、議長サマリーを添付した短い報告書であるべき。(***キム・ハクスー、ESCAP***)

WSSD は報告書を提示するために用いられた方法を見直す絶好の機会であった。私の意見では、国別報告書などの報告書は通常長文の様式で提出されるが、作業グループまたは特別委員会(APFED のような)による報告書は、付属書で補完された短文の様式で提出されることでより影響力のあるものとなる。短い報告書を全て包含する３～４の題目に分けることも可能。(***レザ・マクーン***)

私見では…詳細な付属書を添付した*短い報告書*であるべき･･･繰り返しになるが、*主報告書*は短く的確であるべきであり、*付属書*は含まれる分野についての詳細と使用した方法論を簡単に述べたものを含むべき。報告書は巻を分けてもよい。例えば*第１巻*は*主報告書*(適切であれば*議長サマリーを*添える)であり、*その他の巻*は付属書または付録。(***トンロイ・オンチャン***)

報告書の長さは最小限にし、付加情報を付属書に含むべき。さらに、報告書の初めに必要な行動をサマリーの形で強調することを提案する。さらに、報告書は行動についての制約を明示するべき。(***クラウス・テップファー、UNEP***)

<u>オプションⅢ</u>＜議長サマリーと長文の報告書＞
この作業により、長文の報告書が作成されるとしても威圧感を受けないが、この場合は長い章で各分野について提示された具体的な提案を再現する、追加の議長サマリーを提案する。(***パルベス・ハッサン***)

一冊の議長サマリーを添付した長文の報告書。(***キム・ジョンヒョン***)

３．起草の過程：
<u>オプション１</u>＜３名から５名の APFED メンバーまたはコンサルタントを指名する＞
23 名のメンバーを有する APFED は、メンバーの中から報告書作成のためにより活発な役割を担うための、時間とやる気のある小規模の下位グループ(３名ないし５名)を指名し、コンサルタント契約を交わし適切な報酬を支払うのがよいかもしれない。代案として APFED は、APFED 内外から、作業にあたる小規模のコンサルタント集団を選ぶ事も可能。(後者のほうが好ましい選択肢かもしれない)この小規模集団はより大きな会合(専門家会合およびマルチステークホルダー会合を含む)での成果について審議し、事務局と直接協力して文書をまとめる。この小集団のメンバーは、当初は各自の本拠地で殆どの作業を個別に行うが(例：文書の異なる

部分を各自分担)、ある時点で「ライトショップ(訳注：起草のためのワークショップ)」のために東京に集まり、何日間かかけて最終報告書草案の最終仕上げを行う。こうして作成された最終報告書の草案はその後 APFED メンバー全員に提示され、意見を聞き、最終的に採択される。(***シエリト・F・ハビト***)

<u>オプション３</u>＜事務局が唯一責任を持って最終報告書案を作成する＞
APFED の提言の起草の過程は満足出来るものであったと思うため、最終報告書についてもこの過程でよいであろう、そして過程が進行するに従って必要と思われる改正を行えばよい。この作業は非常に重要だと思われるので、APFED の会合の一つが報告書草案とその最終仕上げに集中するべきである。APFED のメンバーは APFED 作業を支援する時間を見つけることができている。これは将来も依存できるであろう。しかし IGES の経験と責任により全面的に依存する必要があるかもしれない。最終報告書の初校は IGES の有能なチームが準備するべきであることを期待し、提案する。我々は全員 APFED の提言に盛り込まれたいくつかのテーマに関して文書と提案を提出しており、これらは IGES の初校と最終報告書に利用されるかもしれない。(***パルベス・ハッサン***)

<u>その他</u>
…最終報告書作成過程において、研究者および研究機関を含むすべてのステークホルダーの参加および/または関与が欠かせない。さらに提案を採用し、必要な行動をとるための*政治的意思*を確保する方法を見出すことも特に重要である。(***トンロイ・オンチャン***)

４．その他の考慮すべき分野：
<u>最終報告書に盛り込むべき要素</u>
WSSD の APFED の提言は内容的にも体裁も素晴らしいものであると思った－見た目も素晴らしいし、良く出来ていた－とても印象的だ！重要な作成の最終段階に関わったすべての人におめでとうと言いたい･･･最終報告書の体裁に関しては WSSD への提言と似たようなものになることが望ましい。最終報告書の内容と趣旨についてのコメントで私が強調したいことは、**行動計画**の体裁をとるべきであり、緊急に「しなければならない」文書であるべきだということ：**何をするべきか、なぜそれが必要か、どのようにするか。**(***バーバラ・ハーディー***)

最終報告書は･･･各問題について、具体的な提言を含むべき。提案は準地域または国家の優先事項にも取り組むならば特に有用であろう･･･(***パルベス・ハッサン***)

最終報告書の提示

報告書は2005年開催のMCEDに提出することが提案されているため、アジア太平洋地域の持続可能な開発についてのプノンペン地域綱領において、各国政府が合意した進行中のイニシアティブを考慮することが重要。APFEDの提言のフォローアップとアジア太平洋地域の持続可能な開発のためのプノンペン地域綱領が実質的に合致するなら、この報告書は2005年開催のMCEDにとって有用で受け入れられるものであると言える。*(キム・ハクスー、ESCAP)*

APFEDの提言がWSSDへ提出された方法はよかったと思う。しかしながら、フォルダー内の資料おのおのの重要性を最大限に利用するためには、読者からの反応を得て評価するべきであろう。読者群のうちのひとつはAPFEDメンバーであり、次回会合においてアンケートを実施することもできるであろう。 *(レザ・マクヌーン)*

報告書に関してもっとも重要なことはその*内容と要旨*である。これは概念的にそして実質的に容認できる価値を持つものであることが要求される。報告書の体裁(*成果*)がどのようになるかを確認することは重要である。これは困難なことであり、真剣に考察し議論されなければならない。なかんずく最終報告書は政策研究機関としてのIGESの長期にわたる実績を反映するものとなる。言うまでもないことだが、最終的な成果は慎重な分析に基づくべきである。この点は強調すべき。*(トンロイ・オンチャン)*

報告書で扱うトピックは、基本的に過去のAPFED会合で話し合われたものにすべき。しかしながら、報告書に盛り込むべきトピックを考えるためには、MCED や他の機会における報告書の役割を考慮することが適当であろう。*(ロルフ・ゼリウス, ADB)*

その他：

APFEDは、リオからヨハネスブルグの使命の総合的連携に協調して、その範囲内で作業するべきである。すべての取り組みは横断的な目的を持つべきであり、我々の目的はリオやヨハネスブルグをはじめとする国際的なイニシアティブを支援することでなければならない･･･一方でUNEPは地球環境の優先事項やプログラムにおいて中心的な役割を果たし、ESCAPはアジア太平洋地域のために瞠目すべき地域の中核を提供しているが、APFEDは引き続きアジア太平洋地域におけるUNEPとESCAPへの重要な支援の声として存在すべき。APFEDは創設から短期間で支持を集め、バリ会合においては他の従来からの地域組織がAPFEDのアジア太平洋地域におけるリーダーシップと役割を賞賛し、それらの機関が属する地域および他の地域における同様のイニシアティブを提案した。つまり、APFEDが自ら約束した2004年/2005年までという設置期限後も、引き続きAPFEDを存続する強力な根拠がある。*(パルベス・ハッサン)*